

第10回山陽新聞医療セミナー「妊娠前から知っておきたいこと」(山陽新聞社主催)が11日、岡山市北区奉還町の岡山国際交流センターで開かれ、岡山二入クリニック(同津高)の林伸旨院長らが元氣な赤ちゃんを授かるための健康管理・不妊治療などを解説した。(大立貴巳)

岡山で山陽新聞医療セミナー

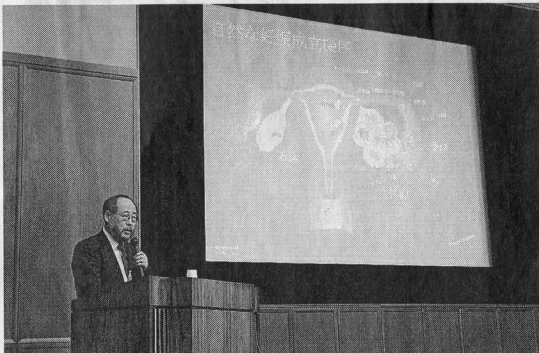
林院長は排卵・射精、受精、受精卵の子宮内膜への着床という妊娠プロセスを紹介。「どこかに問題があると妊娠は成立しない。女性の加齢とともに妊娠率が低下し、流産率が高くなるが、2回以上流産した人の8割は治療によって赤ちゃんを得ている」と説明した。

母体となる女性は妊娠前の採血検査で、赤ちゃんに異常を来す風疹の抗体を持っているかどうか、糖尿病の有無などを調べるよう勧めた。食生活では、ロココリーなどに含まれる葉酸は、胎児の中枢神経系の異常を予防するため摂取する。マグロ、キンメダイなど大型魚には有機水銀が蓄積される傾向があり、食べ過ぎは禁物。「無理なダイエットはせず、バランスよく食べよう」と助言した。

元気な赤ちゃん授かるには

喫煙は血流を悪く、不妊治療では、排卵し、血栓(血の塊)をが近くと大量に分泌し、危険性が増すため、禁煙することが大切。妊娠中は「アルコ」LH検査、超音波検査、1ルをほどほどに。イ精液検査などを行う。ンフルエンザワクチン(ここで原因が見つからは接種してよいが、甲なくても、妊娠の可能性がある治療として人ん薬などを使う場合は、工授精、体外受精を奉医師に必ず相談を」とげた。

人工授精は排卵の時



健康管理や不妊治療解説

期に精子を子宮内に注入、体外受精は卵子と精子を体外に取り出して受精させ、子宮に移す。妊娠の可能性を上げる利点は大きい。が、自費診療のため経済的負担が重くなる。岡クリニクでは人工授精で2万円、体外受精で30万〜50万円かかる。

しかし体外受精や顕微鏡を使って卵子に精子を注入する顕微授精では、所得制限があるものの費用の一部を補助する特定不妊治療費助成事業もある。林院長は「避妊をしていないのに1年以上妊娠しない場合などに、夫婦で治療を受けるかどうかが真剣に話し合っしてほしい」と呼び掛けた。

このほか、妊娠成立の仕組みや治療法を分かりやすく解説したDVD「望妊治療」を上映。林院長と中塚幹也・岡山大学大学院教授生殖医学)が不妊治療や薬の影響にも応じ、カップルら約100人が聞き入った。

妊娠成立の仕組みや不妊治療などを解説する林院長